

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3770500415		
法人名	医療法人社団 素耕会		
事業所名	富士グループホームほほえみ		
所在地	香川県観音寺市観音寺町甲2899番地3		
自己評価作成日	平成27年9月30日	評価結果市町受理日	平成26年1月31日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaiyokensaku.jp/37/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kani=true&JiyosvoCd=3770500415-00&PrefCd=37&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人香川県社会福祉協議会
所在地	香川県高松市番町一丁目10番35号
訪問調査日	平成27年11月12日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

生き生きと楽しく生活できるよう、脳リハ(プリント)、歩行リハビリ、ミニ体操、レクリエーションなど、変化のある毎日にと、工夫している。日中はほとんどの利用者がリビングに集まり、職員や利用者同士で会話が絶えることなく過ごしている。食事については、栄養面や健康面に配慮し、薄味・具だくさんをモットーに職員が交代で作っている。1ユニットで職員、利用者が一団となったアットホームな事業所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

医療法人が母体となった街中にある1ユニットのグループホームである。1階にはデイサービスセンターがあり、2階にグループホームがある。職員は、理念である「誠心」を共有し、一人ひとりの違いを大事にしたケアに取り組んでいる。自治会に加入し、事業所行事や避難訓練時にも地域住民が参加協力してくれている。利用者の心身機能の低下を予防するため、脳リハビリや歩行、体操、レクリエーション、月1回の外出行事等に取り組んでいる。氏名や服薬等を記載した防災カードを作り、避難訓練や外出時に、胸に付けるようにしている。利用者は、落ちついた穏やかな表情をしており、家庭的な雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念と目標を見える所に掲示している。職員全員が、「誠心」の心を持ってケアが行えるよう努めている。	「誠心」を理念としている。全職員が「まごころ」をもって利用者に接するよう努めている。一人ひとりの違いを大切に、その人がその人らしく暮らしていけるよう支援している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会しており、回覧板などにより、地域の情報を得ることができる。また、ホームの方からも行事の参加を呼びかけている。散歩時に、挨拶や会話をしている。	自治会に加入している。避難訓練時には、事前に近隣にチラシを配って知らせ、参加を呼びかけ、前回8人の参加、協力が得られた。散歩の時など、顔なじみになった地域の人達と挨拶を交わすようになっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	商店会より「AED」を設置してほしいとの要望があり、設置している。自治会の行事やお知らせが、回覧板で回ってくるので、ご利用者にも伝えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催し、ホームの行事や行事予定、ご利用者の状況などを報告している。ご利用者のご家族にも順番に出席してもらい、率直な意見をいただいている。	2か月に1回開催し、事業所の運営状況の報告や話し合いをしている。地域の代表者としては老人会長が参加している。利用者とその家族は順番制で参加している。	会議録に、参加者からの意見や情報及び課題を記載し、職員会議で検討し、サービスの向上に活かされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に市職員に出席してもらい、ホームで抱えている悩みや問題点を相談し、意見を聞いている。毎日の生活介護の中で、疑問点があれば、ケアマネージャーが電話で市担当者に相談している。	運営推進会議に市の担当者が参加しているので、連絡や相談等をしている。疑問点等がある時は、介護支援専門員が市担当者に連絡し、相談や指導を受けている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	「身体拘束」のマニュアルを解かりやすい所に掲示し、職員に周知し、全体会でも学習している。2階出入り口の夜間の施錠については、安全のため、ご家族の同意書ももらっている。	身体拘束をしないケアに取り組んでいる。職員会議で議題に取り上げ、学習をしている。安全のため、2階出入り口にセンサーを設置し、人の出入りの把握をしている。必要な人には、布団に鈴を付けて動きを知り、早期に支援できるよう工夫をして、拘束をしないケアに取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルをスタッフに配布し、全体会でも学習し、虐待防止の意識づけをしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全体会で学習したことはある。当事業所では、以前、日常生活自立支援制度を利用していた方がいたので、社会福祉協議会の方と話し合いながら支援した。今後もそういう方がいたら受け入れたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際に契約や解約などについて、十分に説明し、不安や疑問についても納得がいくまで時間をかけ、説明するようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ホームの入り口に意見箱を設けている。必要があれば、事業所の関係者や院長も交えて、カンファレンスを行うことがある。ご家族には、面会時に職員から話しかけ、意見や要望をお聞きする機会を作るようにしている。	意見箱を設置している。利用者からは食事内容等について、意見や要望がある。家族の意見や要望は、面会時に聴くようになっているが、あまり出てきていない。要望内容によっては、理事長や関係者を混えて、カンファレンスを行うようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体会の時や随時、職員から意見を聞く機会を設けている。	職員会議を、毎月1回、全員参加で開催し、伝達事項や必要な研修、職員の意見や要望の把握等をしている。また、申し送りの際などにも意見が出ることもあり、それらをしっかり受け止め、運営に活かすようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務状況を把握、評価し、労働時間についても配慮してくれている。働きやすい環境であると思っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	人員基準は満たしているが、研修を受けることがむづかしい。施設内全体会で色々な勉強はしているものの、外の研修の機会は少ない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者との交流は、今はほとんど電話にて意見交換をしている。勉強会や研修会には、人員の事もあり、参加できていない。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前はケアマネージャーが入居予定者を訪問して、顔を覚えてもらったり、話を聞いたりして、入居後の不安や困惑を少なくするよう対応している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前、入居後、こまめに連絡を行い、ご家族の不安や要望を聞くようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	これまでの状況や状態を踏まえて、ご本人やご家族が今一番何を求めているかを、十分に話し合いながら、どのようなサービスが必要かを考えている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人が得意とすることや経験を、活かせるような場面作りを大切にしている。家事などのできることを、一緒にしたり頼んだりしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の面会時にはご本人やご家族、職員を交えて話をし、状況を伝えたり、要望を聞いたりしている。必要な時は、来所をお願いすることもある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人がこれまで親しくしていた人や馴染みの場所などの情報提供を、ご家族にお願いしている。外出時には、自宅周辺をドライブしたりしている。入居時になじみの物の持ち込みもある。	馴染みの人の訪問や電話がかかってきたりする時があり、その関係は大事に支援している。外出時には、自宅周辺をドライブし思い出してもらおうようにしている。馴染みの美容院を継続利用している人もいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者それぞれの性格や相性を考慮し、席替えなどの配慮をしたり、ご利用者同士が仲良く暮らせるような環境づくりに努めている。			
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の事業所へ行った方への面会に行ったり、入院した方をお見舞いに行ったりしている。退居した後も相談に乗ったり、行く先の情報提供もしている。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人からの訴えや表情・行動から感じられること、ご家族からの要望を職員間で共有し、ご本人本位の支援ができるよう努めている。	日々の支援の中で、利用者の表情やしぐさ等、会話の中から、利用者の思いや意向の把握に努めている。家族からも情報を得ている。利用者の思いや意向を大切に受け止め、申し送りノートや日常生活記録で情報を共有し、個別支援に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人やご家族、面会に来られた知人や友人から話を聞いたり、入居前の事業所から情報提供をもらい、把握に努めている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルや排便、水分や食事の摂取量を記録することで、身体状態を把握し、行動記録をつけることで、1日の過ごし方や心身状態、有する力等の把握ができるよう努めている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の思い、意見を重視し、ケアプランに反映させている。担当者が毎月モニタリングを行い、考察したことを次のケアプランに活かしている。	ケース担当制にし、担当者がモニタリングを行い、月1回確認している。考察した結果を、次のケア計画に活かしている。利用者や家族、医師等の意見も取り入れ、その人らしく暮らしていくことを支える介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録や申し送りノートにより、職員全員が情報を共有している。口頭での申し送り時に問題や課題について話し合っている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご家族からの要望があると、主治医を富士クリニックに変えたり、緊急時には院長の診察を受けることができるので、ご家族には安心して暮らせると喜ばれている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	以前は自治会の会合に参加する方もいたが、今はおられない。近所の理美容院や地域の消防署と連携をとっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ご本人及びご家族の希望を優先している。協力医療機関以外の医療機関への受診の際は、ご家族に同行してもらい、必要な時は院長に紹介状を書いてもらっている。受診前や受診後は、ご家族と密に連絡をとっている。	利用者や家族の希望するかかりつけ医を優先している。協力医療機関以外での受診の場合は、原則家族が付添い、事業所はその受診結果を家族と共有している。協力医療機関である法人の病院が隣接しており、緊急時にも素早い対応が可能となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制により、正看護師が週3回訪問してくれ、ご利用者の健康管理をしてくれる。ご利用者の体調についても相談やアドバイスをあり、院長へ状況を報告してくれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には介護情報を提供している。又、他病院との対応は、ケアマネージャーが行っており、信頼のある関係づくりができています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の対応指針を作成し、入居時に説明している。夜間時におけるスタッフ1人体制では、限界があるため、重度化した場合は転居となることが多いことを納得した上で、入居してもらっている。重度化した場合は、ご家族と経過の連絡を密にとり、入院や施設入所の支援を行っている。	事業所の体制から重度化した場合や終末期は対応困難である旨を、入居時に家族に説明し、納得の上、利用してもらっている。利用者の変化に合わせ、その都度、医師と連携して家族に説明し、入院や他施設の紹介等の支援をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを回覧しているが、実践的訓練を定期的に行ってはいない。緊急時には病院に連絡し、昼夜を問わず対応してくれるので、安心している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。昼夜の災害時におけるマニュアルを作成し、報知器の横に掲示している。ご利用者一人ひとりの防災カードを作ったり、頭巾などを用意し、災害に備えている。その他、チラシを近所に配り、地域の方への協力をお願いしている。	年2回、地域にも呼びかけて避難訓練を実施している。前回の訓練時には地域住民8名の参加があり、避難や誘導等の協力を得ることができた。利用者は、防災ずきんと防災カード(氏名、生年月日、住所、電話番号、服薬名入り)を胸に付けて避難するようにしている。	現在、事業所で行われている避難方法について、分かり易く文書化し、整理されると職員の理解と共通認識が深まると思われるので、検討されている。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりの気持ちを尊重する思いを持って、会話をしたり、声かけをしたりしている。特にトイレ誘導をする時は、プライドとプライバシーを損なわないように配慮している。	利用者が、既に亡くなっている人が生きているかのような話をして訂正せず、聴いてあげるようにしている。トイレ誘導は他の利用者にはわからないよう声かけに注意するよう指導している。職員が利用者に対して不適切な言動をした時は、その場で注意している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	どこへ行きたいか、何を食べたいかなどの希望を聞いたり、どれを着るか、どちらをしたいかなどを自分で選んでもらったり、その時々具体的に働きかけるようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活をする中で、その日の体調や気分、希望などにより、臨機応変に対応するようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洗顔、洗髪行為を促し、衣類の自己選択の支援をしている。散髪は2ヶ月に1度の割合で来てくれる出張美容師を利用している。馴染みの美容室へご家族が連れて行く方もいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	スタッフ一同が入居者の嗜好を把握している。食事の準備や片付け、また調理の下ごしらえなど、ご本人のできることを手伝ってもらっている。	食事作りは職員が交替で行なっており、事前の献立表はない。担当者はその日、冷蔵庫の食材を見て、利用者の好みに合うようなメニューを考えて調理している。利用者は出来ることを手伝い、職員と一緒に楽しく食事している。和やかな食事タイムが観察された。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分の摂取量は、一日を通してわかるように記録している。献立表に食材を記入し、同じ献立にならないようにしている。配膳時に一人ひとりの状態に合わせて、量を調整している。水分については、リビングに急須を置き、夜間には個別に寝のみを配っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは、声かけや見守りをし、できない人には一部介助を行っている。夕食後は、義歯を入れ歯洗浄剤に浸け、清潔を保っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記録し、個々の排泄パターンを把握して、適時声かけや誘導を行い、排泄を困難にしている要因にあった介助をしている。失敗を少なくするよう心がけている。	一人ひとりの排せつパターンを把握しており、適時、小声をかけトイレへ誘導している。職員は、利用者が失禁しないよう注意を払い、見守っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜や繊維質の食材を多く使い、調理している。また、毎朝フルーツヨーグルトを提供している。水分摂取が十分行えるように、お茶のほか、10時、14時、15時には、趣向を変えた飲み物を出すなどの工夫をしている。散歩や体操などの適度な運動も行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は2日に1回のペースで行っている。入浴前にはバイタルチェックを行い、体調が悪い時や入浴拒否がある時は足浴や清拭、衣類交換などで清潔を保つこともある。入浴時間については、職員の都合によることが多い。(行事、スタッフの人数により)	利用者の希望に合わせて、2日に1回、個浴で入浴が楽しいものになるよう支援している。入浴できない時は、清拭や足浴、下着交換等で、清潔を保持するよう努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々のパターンや希望にあわせて対応している。プライバシーに気をつけ、安全を確認し、室温や明るさを調節している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬ケースに一人ひとりの服用している薬、効能を記載し、職員全員がわかるようにしている。服薬に関してはチェック表に記入し、確認している。薬の変更があった場合は、申し送りノートやチェック表、個人記録に記入し、全員に周知している。服薬介助、座薬、湿布の貼付、軟膏の塗布、点眼などについて同意書をもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	その人が得意とすることを、他のご利用者に伝えたり、その人ができそうな事をしてもらったりすることで、自信や張り合いが持てるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候やスタッフの人数により、ご利用者全員がそろっての外出は困難なため、玄関先での外気浴をしている。又、月に一度は外出、外食、ドライブをし、行きたい所、食べたい物を聞いて反映できるようにしている。時にはご利用者の家の近くをドライブしている。	日常的には、事業所周辺の散歩、廊下でのウォーキング、玄関先での外気浴をしている。月1回は、外出や外食、ドライブに出かけている。また、年1回の家族同伴で日帰りバス旅行等を行っている。	行事や月1回の外出の詳細な計画書を作成しているが、実施及び考察、次への課題等を記録することで、次回以降の事業実施の参考になり、運営推進会議への行事報告等が作成できるので、参考とされたい。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者やご家族の承諾を得て、事業所が預かり金を管理している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があれば、電話をかけたり、かかってきた電話を取り次ぎ、ご家族との会話を支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	雰囲気にあった有線放送をかけたり、カーテンや照明で明るさを調節している。廊下やリビングには、ご利用者と一緒に行った作品や飾りを掲示している。居室やトイレには混乱を防ぐために、名札や表示をつけている。	天窓から自然光が差し込み、明るく、広々とした清潔感のある共用空間である。リビングには、テーブルやソファ、畳間があり、ゆったりとくつろげる。廊下やリビングの壁面には利用者の書道や絵画、塗り絵等の作品が飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	席の決まったテーブルの他に、自由に座れるソファや椅子と畳があり、気の合ったご利用者同士がゆっくりと話ができるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族の方には、入居前や入居後にも馴染みの物が大事だと説明しているが、持ち込みされている方は少ない。畳かベッドの選択や配置は、ご本人やご家族と相談しながら、安全で居心地が良いようにしている。	ベッドや布団は備え付けではなく、使い慣れた家具を持ち込んだり、リース製品を使っている。本人や家族で相談しながら、安全で居心地良く暮らせる部屋のレイアウトを工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリー対応の事業所であるので、歩行が不安定な人は老人車を押すなどして、自由に移動ができる。		